



バイオパークは、自然の中で
動物たちとの時間を過ごせる
場所。ぜひお越しください。



飼育員の十九本さん



スナネコは、キュートさと野性味の2つの面を持つ独特の雰囲気の魅力

もう一度、会いたい

バイオパークの 新しい仲間

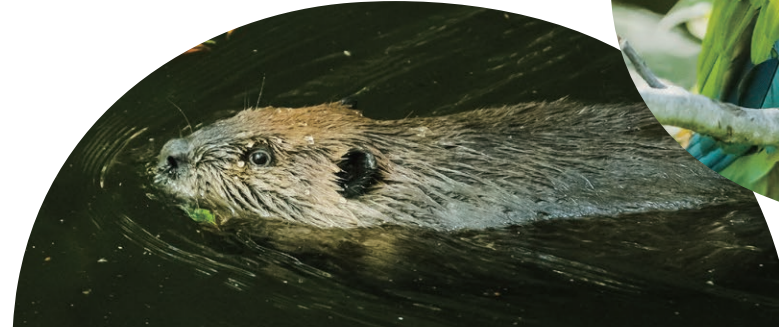
砂漠の天使・スナネコ

「長

崎バイオパーク」を訪れたのは二〇二〇年のこと。あれから五年の間に新しい動物が仲間入りし、繁殖にも成功したと聞き、足を運んだ。愛らしい目でこちらを見つめているのは、スナネコ。「砂漠の天使」と呼ばれるその可愛い姿とは裏腹に、^{どらも} 猛猛な一面を持ち、ペットとして飼うには不向きな野生のネコだ。砂漠の熱い砂の上を歩けるように、足裏が肉球の間から生えている毛で覆われていたり、砂が入らないように耳の内側に毛が生えていたり、独特の特徴を持つ。

では初、国内でも三園目だそう
で、担当の飼育員・十九本美里さん
は飼育の難しさについて教えてくれた。「スナネコは野生動物で人慣れしないため、同じ空間に入らない、さわらない、といった間接飼育を実践しています。バイオパークにはふれあえる動物が多く、間接飼育は少ないので、どれくらい距離感で接すればよいのかは常に考えながら行動しています」。

長崎バイオパークには約200種・2000点の動物と、約1000種・3万点の植物が展示されている。



察していたのですが、母猫が私たち人間に向ける顔とは全く違う優しい表情をしていて、子どもを産んだらお母さんになるんだと、しみじみ思いました」。

うしたらさまざまな動物たちと共存できるのか、動物にとっての幸せとは何か、自分には何ができるのかを深く考えるきっかけを与えてくれる。砂漠の天使は、私たちに多くのことを教えてくれる貴重な存在だ。

飼育歴八年の十九本さんは、地元^{さかひ}西海市の生まれで、幼い頃からバイオパークに通っていた。「動物が大好きで飼育員を目指しました。この仕事は、生死の瞬間に立ち合うことも多いため日々、命の尊さを感じています。小さい頃は、バイオパークのように動物たちが暮らしている場所に自分たちが入っていく、というような動物園が当たり前だと思っていました。でも実際には、そうした動物園は少なく、バイオパークは特別な場所だと感じています」。

ふれあえる動物が多い中で、さわることでできないスナネコはバイオパークの中でも珍しい存在だ。でも、だからこそ、ど

